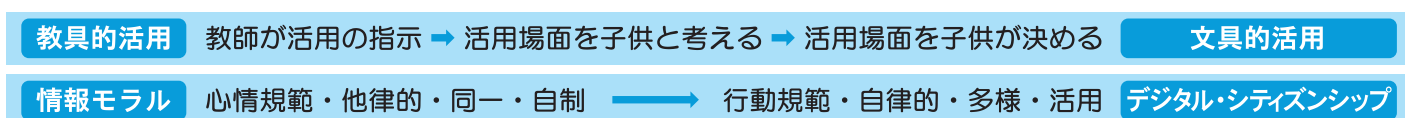


子供主体のICT活用とデジタル・シティズンシップの一体的な充実を

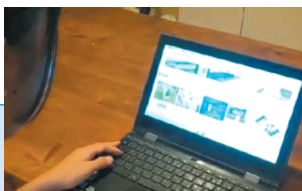
戸田市においては、戸田市版SAMRモデルを基に学びの質の向上を目指し、M段階の学びの推進を目指しています。また、子供主体のICT活用が進むことで、情報モラルからデジタル・シティズンシップ（以下、DC）へと学びの質的変換を図る必要があります。

戸田市プログラミング・ICT教育研究推進委員会では児童生徒の「M段階の具体的な姿」や「DCを発揮している姿」を話し合い、実現に向けたポイントをまとめました。



M(変革)段階の子供の姿

- ・ ツールの特長を自分の言葉で説明でき、日常的に使っている
- ・ 目的に応じて、ドリルやプレゼンテーションのソフトを自分で選択している
- ・ 共同編集などを活用し、友達と情報共有や相互評価をしながら学習を進めている
- ・ 授業中だけでなく、授業外や家庭でも自ら学びを進めている（非同期的な学び・シームレスな学び）



共有サイトを見ながら自分のペースで予習・復習

教師の支援

【授業での支援例（指導観と関連）】

- ・ ICT活用が目的化しないように、学習のゴールを明確に示す
- ・ 学習状況を把握し、身に付けさせたい資質・能力を意識した発問や評価を行う

【授業外での支援例】

- ・ 係活動や委員会活動など、授業外での活用を促す
- ・ 共有サイト等でいつでも学習内容を確認できるように学習環境を整える

子供主体の活用のためには、A段階での十分な指導と経験が必要です。「子供主体」が「放任」にならないよう、どの段階においても教師は見届けと支援を行いましょう。



R5 指導の重点
M段階へのステップ



R6 指導の重点
M段階の実践例



DCを発揮している子供の姿

- ・ デジタルのメリットとデメリットを理解した上で、自分で使い方をコントロールしている
- ・ 調べ学習やプレゼンテーションの際に、出典や根拠を明らかにしている
- ・ 相互評価や情報発信の際に相手を傷付けないよう、発信内容に配慮している
- ・ 授業外や学校外においても、情報リテラシーを活用して行動している



核となるDC授業
「責任ある発信とは？」

教師の支援

【子供主体の学び】

- ・ 一方的な制限や禁止ではなく、子供と一緒にルールを定め、適宜見直しをする
- ・ 小さな問題や失敗が起こった時こそチャンスと捉え、一緒に解決策を考える

【核となる授業】

- ・ 各教科とDCとの関連を年間指導計画に反映させ、様々な教科を通じて指導する

【家庭との連携】

- ・ 懇談会でDCの考え方について情報発信し、家庭との連携を強める

各学校で作成したDCの全体計画・年間指導計画をもとに、①子供主体の学び、②核となる授業、③家庭との連携を柱としてデジタル・シティズンシップを育成しましょう。



R4 指導の重点
SAMRモデルとはDCへの質的変換



R5 指導の重点
DC授業のポイント



R6 指導の重点
DC育成の3つの柱